

平成14年6月27日

社団法人  
日本原子力産業会議

副会長 森 一久 様

サイクル機構

副理事長 竹内榮次

拝啓、貴社益々ご清栄のことと存知ます。

私どもの業務につきましては、平素より大変お世話になっております。

さて、プルトニウムの使用実績につきまして、4月末月の敦賀国際  
フォーラムでの報告内容を小冊子といたしましたので、ご送付申し上げます。

わが国はプルトニウム利用、とりわけ、プルサーマル利用につきましては  
世界に先駆けており、しかも実績のあることが正しく理解されていないことを  
非常に残念に思い、冊子を作成いたしました。

ご送付いたしますのでお受け取り下さい。本小冊子が少しでもお役に立てば  
幸いです。

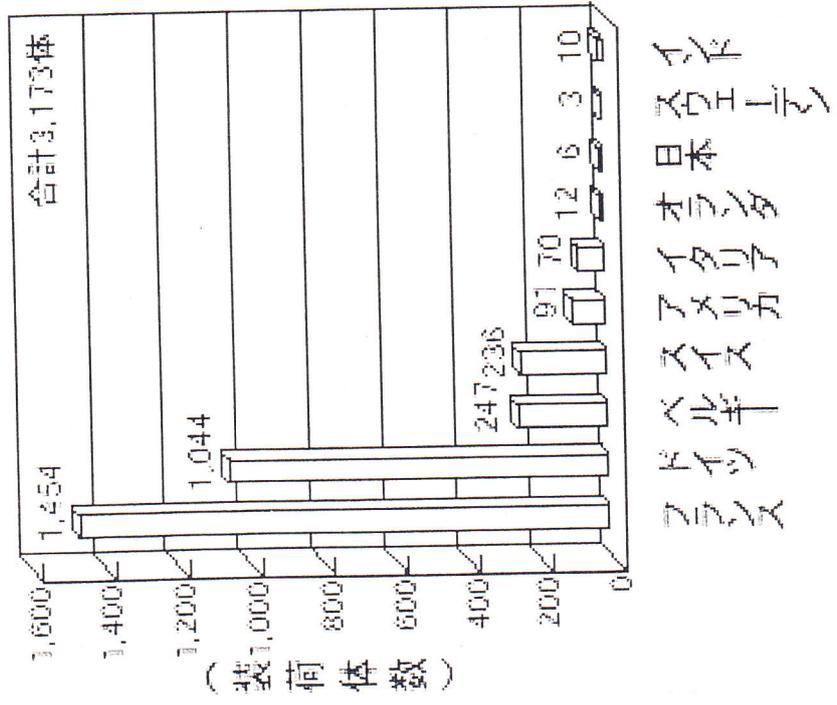
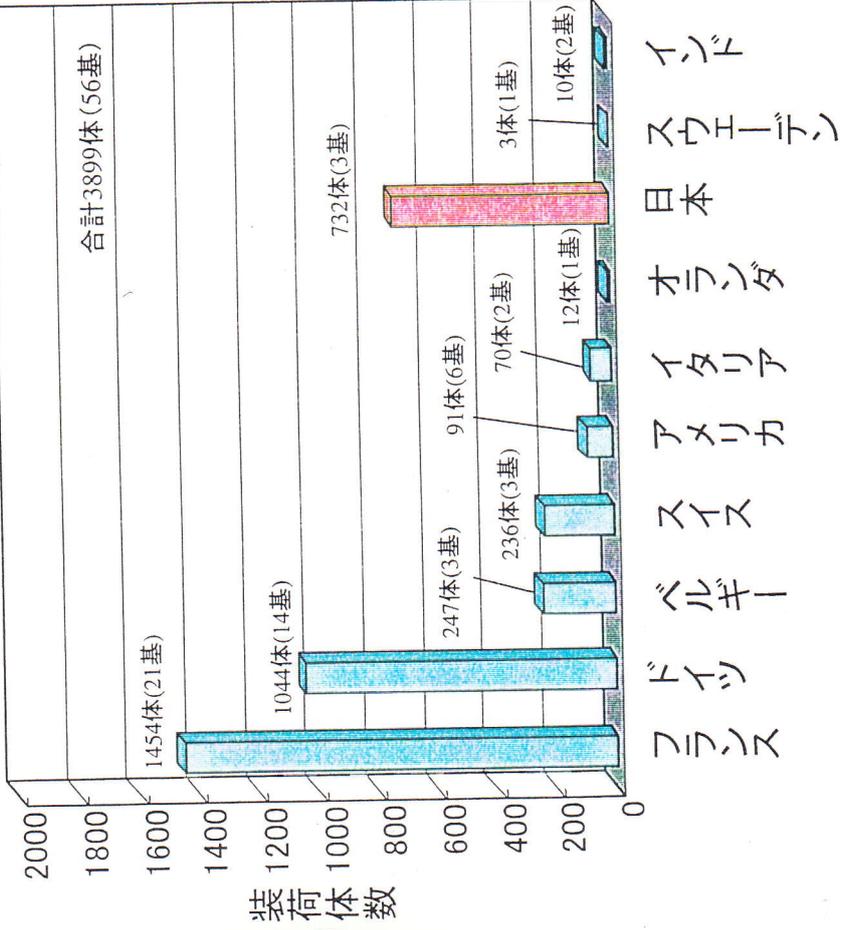
今後ともよろしく願いいたします。

敬具



参考-2

( )内の数値は装荷プレート数を示す 2000年12月末現在



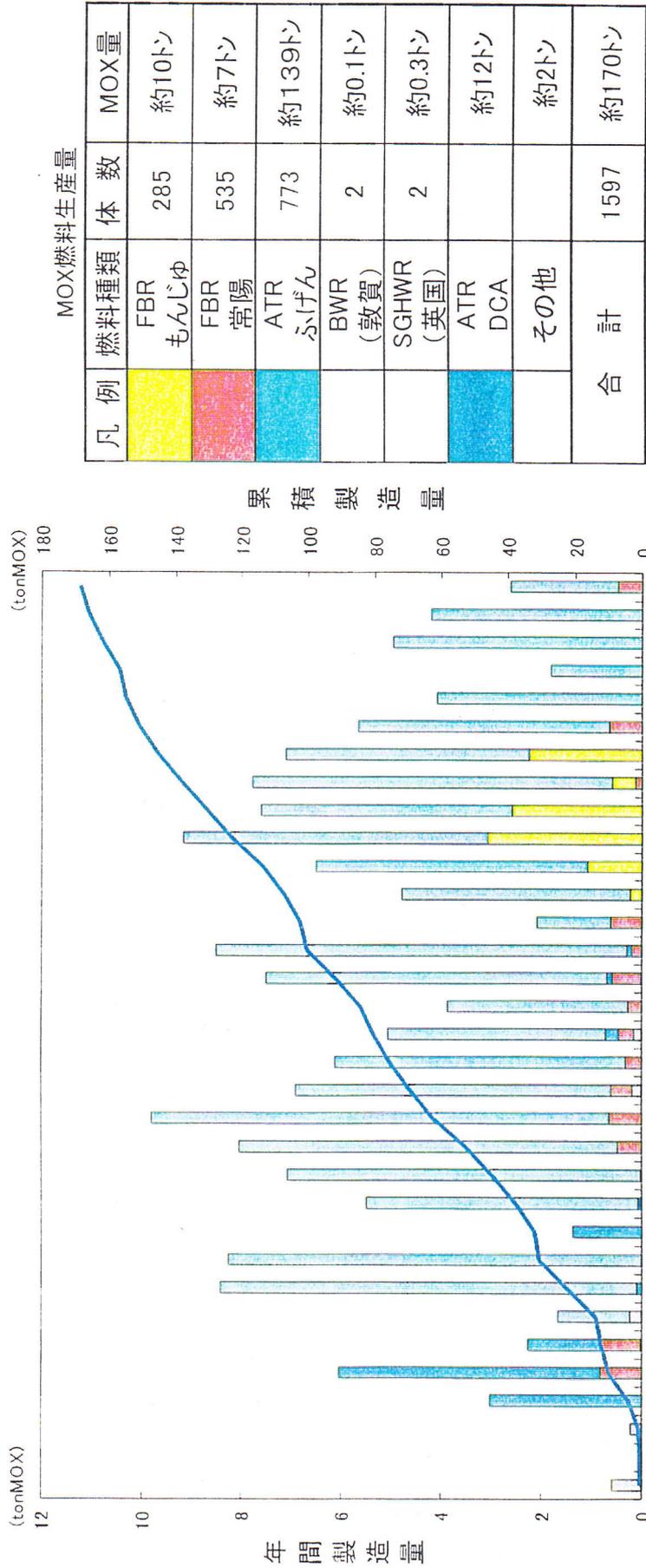
出典：資源エネルギー庁パンフレット「原子力2001」

軽水炉等でのMOX燃料の使用実績

(日本の実績は軽水炉2基6体にふげんの726体を加えたもので2002年5月現在754体)

# サイクル機構におけるMOX燃料製造実績

- 新型転換炉「ふげん」、高速実験炉「常陽」、高速増殖原型炉「もんじゅ」などの累積生産量は約170トン（約6トンPu）です。
- このうち、熱中性子炉用MOX燃料は約150トンです。
- 生産した燃料はすべて炉内で健全に使用されています。



年度

02年3月末現在